

小規模・高齢化集落支援モデル事業の取組事例

もとやまちょう
高知県本山町（本山町集落連携協議会）

1. 協議会の概要

協議会名		本山町集落連携協議会	
構成員	市町村名	高知県長岡郡本山町	
	協定集落名	七戸集落	7名
	小規模・高齢化集落名	吉野集落	3名
	その他構成員	—	3名
対象農用地面積 1.2ha		田 —	畑 1.2ha 草地等 —
交付金額(総事業費) 9.2万円		水路、農道等保全管理支援事業 支援活動推進事業	
			7.2万円 2.0万円

2. 実施地区の概要

■《位置と地勢》

本山町は、四国山脈の中央部に位置し、東流して徳島県に注ぐ吉野川兩岸の僅少な沖積地の外、ほとんどが険峻な山貌を示す壮年期の山々で起伏し、峡谷となって多くの支流を生み吉野川に合流し複雑な地形をしています。

町土(面積 13,421ha)の89.1%は、急傾斜の山林で、北は愛媛県境より南西の傾斜になり、南は、南国市、香美市(土佐山田町)に連なり北西の傾斜、西は土佐町、東は大豊町と境し、集落・耕地は標高250m~740mの間に点在しています。

本町の北部一帯は高峻な石鎚山地に属し、南部には比較的なだらかな剣山地が東西に走り、その中間部を吉野川が東流し、その沿岸には所々狭い河岸平地をつくっています。



■《人口と世帯》

人口は、1965年(昭和40年)には7,343人を数えましたが、2005年(平成17年)には4,374人と、減少を続けています。2005年の15歳未満の人口は417人、65歳以上の人口は1,657人で、高齢者比率は県下平均の25.9%を大きく上回る37.9%となっています。

世帯数は、2005年(平成17年)には1,835世帯で、1世帯当たりの人員は2.32人と小世帯・核家族化が進み、特に高齢者世帯が増加しています。今後も、この傾向は続くものと推定されます。

■《主要産業等》

主要産業は農業であり、減農薬野菜や有機の里づくりに積極的に取り組んでいます。

現在、本山町では中山間地域等直接支払制度を実施(協定数:24協定、加入農地面積:約232ha)するとともに、農地・水・環境保全向上対策事業にも取り組んでいます。

■《旧「吉野村」地区について》

旧「吉野村」地区は、本山町の北西部に位置し、寺家、吉野、坂本、立野、屋所、沢ヶ内、七戸、瓜生野の8集落から構成されます。当地区を南北に流れる汗見川沿いに各集落があり、集落間の移動は基幹道路(1本)に依存した山間地域です。

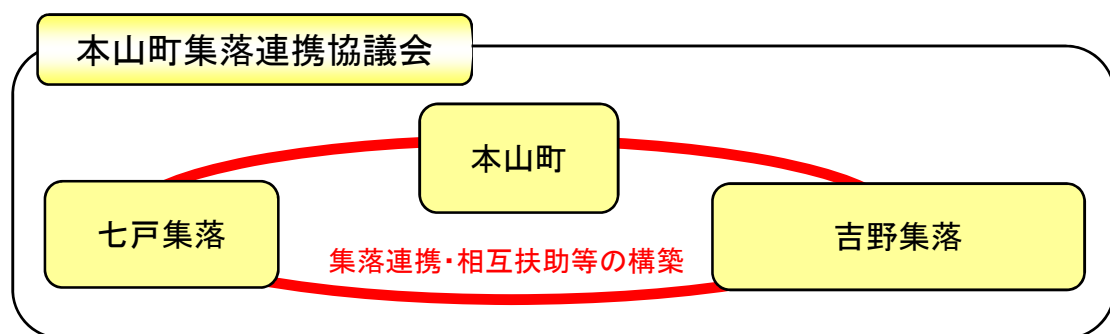
昭和30年4月20日に旧「本山町」との合併を経て、現在の本山町になっています。

■《七戸集落と吉野集落との連携》

七戸集落は、H21.1.21現在、世帯数20戸、人口は38人であり、いわゆる「小規模・高齢化集落」ですが、平成12年度から中山間地域等直接支払制度に取り組むと共に、近隣の集落と合同でイベント(観光事業)等に積極的に参加をしています。

吉野集落は、H21.1.21現在、農家戸数11戸、高齢化率は約82%であり、いわゆる「小規模・高齢化集落」ですが、当事業対象農用地は急峻であり、主に茶を作付けしており、雨水等による土壌の流出防止を図りながら、限られた農地を守っています。

吉野集落は、汗見川地区(七戸集落の他、5集落の総称)に隣接する地域であり、マラソン大会の開催や清掃活動等を協力して行うなど集落間の連携がありました。農業における連携は少なかったため、今回の事業により、更に連携が強くなった状況にあります。



■《活動に至った経緯》

吉野集落においては、本事業に取り組む前から自己資金のみによる農道の補修が困難な状況でした。以前から農道のわだちの起伏が激しく、どうにかしたいと思っていた矢先に事業説明がありました。

初めてのこと(事業)であったため不安がありましたが、同じ町内で顔見知りもいた七戸集落の方のお力添えもあるとのことだったので、「やってみよう。」との声が上がりました。

集落間や吉野集落内の合意を得る段階では、構成員の一員であるとともに地元の方が要望しやすい立場で意見調整に長けた本山町農業委員会の力添えが大きいと思われ、各農家に対して事業の流れ(事業対象活動及び活動期間等)と対象農地での農作業活動との関連について説明をお願いしました。

■《保全管理活動の概要》

- ・平成20年9月4日に設立総会を行いました(補助対象外)。
- ・平成20年12月19日に第1回協議会を開催しました。
- ・平成21年1月15日～17日にかけて、農道の簡易補修及び周辺の草刈りを行いました。
- ・平成21年3月19日に第2回協議会を開催しました。
- ・必要に応じて、降雨後等の見回りを行っています。

■《活動に取り組んだ後の効果》

- ・事業実施後は、地域での保全管理活動に対し、関心が増したように思われました。
- ・対象農地の農家の方からも農道整備をしたことにより、「畑まで行きやすくなったので良かった。」や「農作物の作付け面積を減らそうと思っていたが、これからも頑張ってみようかな。」等の声がありました。
- ・今後は、簡易な舗装を行いたいとの意見もあります。



作業機械搬送車



農道の簡易補修作業機械



農道の簡易補修作業風景(1)



農道の簡易補修作業風景(2)



現地での打合わせ風景



農道の草刈作業風景